

大阪の予防啓発の評価に関するクラブ調査による研究

研究協力者：木村博和（横浜市健康福祉局）、鬼塚哲郎（京都産業大学/MASH大阪）

山田創平、辻 宏幸、後藤大輔（エイズ予防財団/MASH大阪）

市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

平成 18 年度までの大阪におけるゲイボランティアによるHIV予防啓発プロジェクトMASH大阪による各プログラムの効果を評価するため、2006 年 8 月クラブ調査のデータを用いて、予防啓発プログラム（コミュニティペーパー-SaL+）への接触状況と、HIV/STI予防に関する知識や意識、行動との関連について分析した。質問紙の総回収数は 725 件、このうち近畿在住のMSM530 人（平均年齢 29.1 歳）を分析対象とした。

予防知識 6 問の正答数についてSaL+接触群（n=204）と非接触群（n=326）の平均値を比較したところ、接触群の方が高く（接触群 4.3 問 vs 非接触群 3.6 問）、各質問の正答率も 5 問で接触群の方が高かった。過去の性行為の感染リスクの自覚（感染危険あった：30.4%vs14.1%）や身近な陽性者の存在の認識（いる・いると思う：59.4% vs 41.8%）も接触群の方が高かった。性行為時のコンドーム使用状況や購入経験については両群間に違いを認めなかったが、抗体検査の受検経験はSaL+接触群の方が高かった（40.2% vs 32.8%）。

以上より予防啓発プログラム接触群では性行為時のコンドーム使用は多くないが、予防に関する知識や意識は高く、抗体検査の受検経験が多いことから、予防啓発プログラムによる受検行動への効果、影響の可能性が示唆された。今後、コンドーム使用以外の予防行動や性行為に関連する意識や態度について調査し、予防啓発プログラムの効果について評価する必要があると考えられる。

A. 研究目的

大阪ではゲイボランティアによる大阪地域のMSM (men who have sex with men) を対象としたHIV/STI予防啓発プロジェクトMASH大阪が、北区堂山のドロップインセンター（DISTA:ディスタ）を活動拠点として、さまざまな予防啓発プログラム展開している。その効果や影響については、同地区のゲイ向けクラブイベント参加者への質問紙調査を実施し、その予防に関する知識や意識、行動の動向を把握することによって検討してきた。

本研究班においても過去のクラブ調査と同様、2006 年 8 月にクラブイベント参加者を

対象として予防啓発プログラムへの接触状況やHIV/STI予防に関する知識や意識、行動に関する調査を行った。本年度は同調査のデータを用いてプログラムへの接触状況と予防知識や意識、行動との関連について検討することにより、その効果、影響について検討したので報告する。

B. 研究方法

調査資料には 2006 年 8 月に大阪市北区堂山地区で実施したクラブイベント調査のデータを使用した（詳細は本研究班平成 18 年度報告書を参照）。

分析対象者は、重複回答者を除外した上で、①自認するセクシャリティに関する質問にゲイまたはバイセクシャル、わからない、その他のいずれかと回答した人、あるいは②性行動に関する質問で過去に男性とセックスの経験ありと回答した人 687 人のうち、居住地を京都、大阪、滋賀、兵庫、奈良、和歌山のいずれかに回答した 530 人とした。

対象者を予防啓発プログラムへの接触状況の有無により 2 グループに分類し、2 群間の予防に関する知識や意識、行動に関する回答の違いを比較することにより、プログラムと予防行動等との関連について検討した。調査した予防啓発プログラム接触状況は過去 1 年間のコミュニティペーパーSaL+の受け取り経験、予防知識は抗エイズ薬の延命治療への有効性、抗体検査のウインドウ期、迅速検査の正確性、コンドームのオイル易破損性、梅毒の感染性、STI感染の感染力への影響の 6 項目、意識については感染リスクの自己評価、身近な感染者の存在、エイズやSTIに関する相談先の 3 項目、予防行動はアナルセックス時のコンドーム常用状況、最後のアナルセックス時のコンドーム使用経験、コンドーム購入経験、HIV抗体検査の受検経験の 4 項目であった。回答の差異の有無を検討する際には統計的検定の有意確率（おおむね $p < 0.1$ ）を指標として考慮した。統計的検定には質問の回答が名義尺度のときには χ^2 検定（Yates の補正あり）を、順序尺度のときには Mann-Whitney の U 検定を行なった。回答の集計、統計的検定にはパソコン用統計解析パッケージ HALBAU for Windows Ver. 5.44（現代数学社、京都、2002 年）を使用した。

C. 研究結果

1. 対象者の属性と施設等の利用状況

対象者の属性や施設等の利用状況について別表 1 に示す。平均年齢は 29.1 歳（標準偏差 6.6 歳）、SaL+の受け取り経験の有無別に

みると、あり群 28.7 歳、なし群 29.3 歳であった。居住地は両グループとも大阪が多かった。過去 6 か月間堂山地区に行く頻度や施設等の利用状況は、SaL+受取りあり群の方が多く、行動が活発であった。

2. HIVSTI 予防の知識と意識

SaL+の受け取り経験別にみた対象者の HIVSTI 予防の知識や意識についての集計結果を別表 2 に示す。SaL+受取りあり群の方が、正答数合計が多く、「抗エイズ薬による延命治療」、「抗体検査のウインドウ期」、「梅毒の感染しやすさ」、「STI 感染の影響による HIV 感染しやすさ」、「コンドームを油性潤滑剤と併用すると破けやすくなること」についての正答率も高かった。受取りあり群の方が HIVSTI に関する予防知識が多い傾向が認められた。

過去の性行動の感染リスク自認についてみると、SaL+受取りあり群の方が「十分可能性があった」との回答が多く、「絶対ない」人が少なく、感染リスクを自認する人が多い傾向が認められた。感染者の身近な存在については、受取りあり群の方が身近に感じている（「いる」または「いると思う」の合計）人が多かった。エイズや性感染症に関する相談先では、受取りあり群の方がコミュニティセンタースタッフや電話相談をあげる人がやや多い傾向が見られた。

3. コンドーム使用状況について

SaL+受取り経験別にみた過去 6 か月間のアナルセックス時の相手・行為別のコンドームの使用状況を別表 3 に示す。いずれの場合のコンドーム常用率（「毎回使った」人の割合）も両群間に明らかな違いを認めなかった。「最後にしたアナルセックス」でのコンドーム使用でも、両群の使用率（「使った」と回答した人の割合）に違いは認められなかった。コンドーム購入経験についてみると、アナ

ルセックス経験者では半数以上が「ある」と回答し、その購入先はドラッグストア、コンビニ、ゲイショップの順であった。購入経験と年齢との間には特徴的な関係はみられなかった。

4. 抗体検査の受検状況について

SaL+受取り経験別にみたHIV抗体検査の受検経験に関する集計結果を別表4に示す。

過去1年間の抗体検査の受検率は受取りあり群の方がやや多い傾向がみられた。受検場所についてみると受取りあり群で「土曜午後の検査」が多かったが、そのほかの場所では明らかな違いを認めなかった。

D. 考察

大阪ではゲイボランティアによる予防啓発プロジェクトMASH大阪の展開する予防啓発プログラムの効果を評価し、また新たな予防啓発プログラムを模索するため、1999年から2004年までの間、毎年、北区堂山地区のクラブイベント参加者を対象とした質問紙調査を実施してきた。クラブ利用者という特定の集団であるが毎年同様のMSM集団の予防に関する知識や意識、行動を調査し、その年次推移を比較、検討することにより、各プログラムの有効性について検討してきた。ただ2005年は大阪市内のゲイバーの顧客を対象とした大規模調査や屋外型啓発イベントを実施したことから、クラブイベントでの調査は実施しなかったため、今回のクラブ調査は2年ぶりとなる。調査の実施手順は過去の調査結果との比較可能性を確保するため、大きく異なる点はない。調査を行ったクラブ数は対象者数を増やす目的からそれまでの1か所から2か所に増やしている。質問紙は2001年までA4版2ページで40問程度のものを使用していたが、協力を得て配布した質問紙が回収できなかつたり、無回答や白紙回答もかなり存在したことから、2002年からは25問程

度に質問数を減らしている。それ以降今回の質問紙も含めて質問数はほとんど変わっていない。質問内容は各年次のプログラムの展開に応じた若干の変更点はあるが、全体的に大きな違いはない。今回の調査で変更した点はドロップインセンター（DISTA）で開催する各プログラムや屋外型啓発イベント（PLuS）への接触状況、インターネットの利用状況、堂山地区への来所頻度、即日検査や自宅検査キットに関する知識、HIVSTIに関する相談相手についての質問を追加したこと、脱法ドラッグについての質問を削除したことなどである。堂山への来所頻度の調査は大阪地域のMSM人口を推計する基礎資料とするためでもある。

今回の研究目的は2006年に実施したクラブ調査のデータを用いて、コミュニティペーパー（SaL+）の受け取り経験と、予防に関する知識や意識、行動との関連の有無を検討することにより、MASH大阪の予防啓発プログラムの効果、影響について調査することにある。予防啓発プログラムにはSaL+以外にもドロップインセンター（DISTA）で開催するSTI勉強会などのプログラムや屋外型啓発イベント（PLuS）がある。大阪の予防啓発の効果を評価するためには、複数のプログラムへの接触状況との関連から検討することも考えられる。しかしこれらプログラムへの接触状況が相互に強く関連すること、DISTAやPLuSへの各々の接触状況と予防知識や意識、予防行動との関連についての分析結果がSaL+に関する分析結果とほとんど相違ないことから、今回SaL+以外のプログラムの分析結果は報告していない。

SaL+への接触状況別の集計結果をみると、二つの特徴がみられる。一つは、SaL+接触群の方がHIVSTI感染予防に関する知識の正答率が高く、過去の性行動の感染危険性や身近な陽性者の存在を自覚する人が多かったことである。またHIVSTI感染についての相談先として

DISTAスタッフや電話相談をあげた人が相対的多かったのも特徴としてあげられる。

もう一つの特徴は、予防行動の面ではコンドームの使用状況とSaL+接触状況との間に関連を認めなかったこと、抗体検査の受検行動の面ではSaL+接触群に受検経験者がやや多かったことである。コンドーム使用状況は、SaL+接触状況別にみても、相手が特定の相手であろうと不特定の相手であろうと両群の常用率に違いを認めなかったし、最後のアナルセックス時のコンドーム使用率にも違いを認めなかった。抗体検査の受検場所については主な受検場所は医療機関や保健所などで両群間に違いを認めなかったが、土曜午後の検査についてはSaL+接触群に多かった。

今回の分析からSaL+接触群の特徴をまとめると、HIV/STIの予防に関する知識は多いが、性行為時のコンドーム使用による予防行動が多いとはいえない。しかし感染リスク行為への自覚やHIVの知識が多いことから抗体検査を受検した人が多いという仮説が考えられる。つまりMASH大阪による予防啓発プログラムはコンドーム使用への効果、影響は認められなかったが、予防に関する知識や意識への変化を通じて受検行動への影響を及ぼした可能性のあることが示唆された。今後、性行為時の予防行動についてコンドーム使用以外の予防行動や行為時の意識や態度について調査することにより、予防プログラムの効果、影響を検証していく必要があると考えられる。

E. 結語

MASH大阪によるHIVSTI予防啓発プログラムの効果について評価するため、2006年のクラブ調査のデータを用いて、プログラムへの接触状況と、予防に関する知識や意識、行動との関連について検討した。その結果予防知識や意識、受検行動との関連を認めたが、コンドーム使用との関連は認めなかったことか

ら、予防啓発プログラムが予防に関する知識や意識と受検行動に効果、影響を及ぼす可能性が示唆された。今後、コンドーム使用以外の予防行動やそれに関連する意識や態度への効果や影響について調査する必要があると考えられる。

別表1 対象者の属性

	受取あり (%) n=204	受取なし (%) n=326	合計 (%) n=530	p値 [#]
過去のクラブ調査への回答経験				
ない	157 (77.3)	299 (91.7)	456 (86.2)	<0.00001
昨年以前に回答経験あり	36 (17.7)	15 (4.6)	51 (9.6)	
わからない	8 (3.9)	12 (3.7)	20 (3.8)	
今年は○回目	2 (1.0)	0 (0)	2 (0.4)	
インターネット利用				
利用しない	13 (6.4)	24 (7.6)	37 (7.1)	0.02712
ときどき	50 (24.6)	111 (35.0)	161 (31.0)	0.01196 Wr
よく利用する	140 (69.0)	182 (57.4)	322 (61.9)	
年齢				
平均値(標準偏差)	28.7 (6.3)	29.3 (6.8)	29.1 (6.6)	
～24歳	62 (31.0)	82 (25.5)	144 (27.6)	0.3161 0.36012 Wr
25～29歳	46 (23.0)	88 (27.4)	134 (25.7)	
30～34歳	52 (26.0)	71 (22.1)	123 (23.6)	
35～39歳	32 (16.0)	58 (18.1)	90 (17.3)	
40歳～	8 (4.0)	22 (6.9)	30 (5.8)	
居住地				
大阪	153 (75.0)	225 (69.0)	378 (71.3)	0.41777
兵庫	29 (14.2)	51 (15.6)	80 (15.1)	
京都	18 (8.8)	39 (12.0)	57 (10.8)	
その他	4 (2.0)	11 (3.4)	15 (2.8)	
セクシャリティ				
ゲイ	177 (86.8)	275 (84.6)	452 (85.4)	0.02084
バイセクシャル	23 (11.3)	46 (14.2)	69 (13.0)	
わからない	0 (0)	4 (1.2)	4 (0.8)	
その他	4 (2.0)	0 (0)	4 (0.8)	

#p値:WrはWilcoxonの順位和検定, 他は χ^2 検定による値.

別表2 HIV/STI予防に関する知識・意識

	受取あり (%) n=204	受取なし (%) n=326	合計 (%) n=530	p値 [#]
HIV関連知識(正答率)				
HIVの延命治療について	169 (51.8)	131 (64.2)	300 (56.6)	0.00679
検査ウインドウ期について	237 (72.7)	168 (82.4)	405 (76.4)	0.01460
HIV迅速感染キットの誤反応	171 (52.5)	99 (48.5)	270 (50.9)	0.42946
コンドーム耐性について	147 (45.1)	128 (62.7)	275 (51.9)	0.00011
STI感染によるHIV易感染性	205 (62.9)	163 (79.9)	368 (69.4)	0.00005
梅毒の易感染性	256 (78.5)	178 (87.3)	434 (81.9)	0.01541
HIV/STI予防知識の正答数				
6問	45 (22.1)	45 (13.8)	90 (17)	0.00082
4-5問	103 (50.5)	142 (43.6)	245 (46.2)	
0-3問	56 (27.5)	139 (42.6)	195 (36.8)	
自身のエイズにかかる可能性				
絶対ない	11 (5.4)	48 (14.7)	59 (11.1)	0.00006
ほとんどない	64 (31.4)	100 (30.7)	164 (30.9)	
五分五分	44 (21.6)	82 (25.2)	126 (23.8)	
十分可能性があった	62 (30.4)	50 (15.3)	112 (21.1)	
わからない	23 (11.3)	46 (14.1)	69 (13.0)	
身近なHIV感染者の存在				
いる	69 (34.2)	84 (26.0)	153 (29.1)	0.00092
いると思う	51 (25.2)	51 (15.8)	102 (19.4)	
いないと思う	24 (11.9)	71 (22.0)	95 (18.1)	
いない	41 (20.3)	91 (28.2)	132 (25.1)	
わからない	17 (8.4)	26 (8.0)	43 (8.2)	

#p値:WrはWilcoxonの順位和検定, 他は χ^2 検定による値.

別表3 回答者の過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用状況

	受取あり (%) n=204	受取なし (%) n=326	合計 (%) n=530	p値 [#]
特定相手(タチ)でのゴム使用状況(n=286)				
常用	62 (56.4)	109 (61.9)	171 (59.8)	0.41772
非常用	48 (43.6)	67 (38.1)	115 (40.2)	0.25062 Wr
特定相手(ウケ)でのゴム使用状況(n=265)				
常用	68 (59.1)	90 (60.0)	158 (59.6)	0.98669
非常用	47 (40.9)	60 (40.0)	107 (40.4)	0.92137 Wr
不特定相手(タチ)でのゴム使用状況(n=256)				
常用	57 (61.3)	111 (68.1)	168 (65.6)	0.33396
非常用	36 (38.7)	52 (31.9)	88 (34.4)	0.41719 Wr
不特定相手(ウケ)でのゴム使用状況(n=242)				
常用	67 (65.7)	94 (67.1)	161 (66.5)	0.92100
非常用	35 (34.3)	46 (32.9)	81 (33.5)	0.96375 Wr
コンドームの使用状況(n=402)				
常用	84 (50.3)	138 (58.7)	222 (55.2)	0.11594
非常用	83 (49.7)	97 (41.3)	180 (44.8)	0.09457 Wr
最後のアナルでのコンドーム使用				
特定相手の場合(n=261)	56 (52.3)	70 (45.5)	126 (48.3)	0.33287
不特定相手の場合(n=227)	49 (55.7)	72 (51.8)	121 (53.3)	0.66368
過去6か月間のコンドーム購入経験(アナルセックス経験者のみ再掲)				
購入した経験あり	91 (45.7)	149 (48.4)	240 (47.3)	0.62269
なし	108 (54.3)	159 (51.6)	267 (52.7)	
購入場所				
ドラッグストア等	42 (21.1)	79 (25.6)	121 (23.9)	0.28672
コンビニ等	18 (9.0)	46 (14.9)	64 (12.6)	0.06983
ゲイショップ	28 (14.1)	23 (7.5)	51 (10.1)	0.02367
ハッテン場	18 (9.0)	19 (6.2)	37 (7.3)	0.29784

#p値: WrはWilcoxonの順位和検定, その他は χ^2 検定による値.

別表4 回答者の過去1年間のエイズ検査の受検状況とHIV/STIに関する相談相手

	受取あり (%) n=204	受取なし (%) n=326	合計 (%) n=530	p値 [#]
エイズ検査の受検経験				
受検した経験あり	82 (40.2)	107 (32.8)	189 (35.7)	0.10283
なし	122 (59.8)	219 (67.2)	341 (64.3)	
受検場所の内訳				
病院・クリニック	27 (13.2)	39 (12.0)	66 (12.5)	0.76693
保健所・保健センター	32 (15.7)	45 (13.8)	77 (14.5)	0.63709
木曜の夜間検査	3 (1.5)	2 (0.6)	5 (0.9)	0.59512
土曜午後の検査	15 (7.4)	4 (1.2)	19 (3.6)	0.00056
日曜午後の検査	7 (3.4)	13 (4.0)	20 (3.8)	0.92605
名古屋のイベント検査	3 (1.5)	2 (0.6)	5 (0.9)	0.59512
その他	2 (1.0)	7 (2.1)	9 (1.7)	0.50529
HIV/STIについて相談場所の有無				
相談場所あり	192 (94.6)	299 (92.3)	491 (93.2)	0.40096
なし	11 (5.4)	25 (7.7)	36 (6.8)	
HIV/STIについて相談したい相手				
知り合いの医療関係者	24 (11.8)	46 (14.2)	70 (13.3)	0.51578
病院・クリニック	71 (35.0)	100 (30.9)	171 (32.4)	0.37594
保健所・保健センター	70 (34.5)	118 (36.4)	188 (35.7)	0.72012
distaのスタッフ	25 (12.3)	3 (0.9)	28 (5.3)	<0.00001
電話相談	26 (12.8)	24 (7.4)	50 (9.5)	0.05664
友人・知人	60 (29.6)	83 (25.6)	143 (27.1)	0.37396
その他	3 (1.5)	5 (1.5)	8 (1.5)	1.00000

#p値: WrはWilcoxonの順位和検定, その他は χ^2 検定による値.